

対市交渉(5月17日)に市長はとうとう出席せず!

「温泉問題考える会」の代理が出席して 質問への回答は市民の疑問が増すばかり



3月定例市議会で明らかになった、温泉事業の経営者となる「新四季創造株式会社」が、いまだに立ちあがらず、会社の定款さえ決まっていないという事態。

私たち「温泉問題を考える会」は、この事態をうけて、市民生活を犠牲にしても、なお、温泉施設建設をすすめるのか? 赤字になった場合の責任を市長はどうとるのか? などの17項目、46問の質問状を市長に届け、市長に面談しての回答を求めてきました。

ところが、17日市民代表19人が参加したにもかかわらず、市長の出席は得られず、市長の代理二人(企画財政部長と企画課長)が出席して文章を見ながらの回答となりました。

質問状は、17項目46問約3千文字。回答読み上げにかなりの時間を要しましたが、その内容は、これまでの議会での市長答弁の域を出ず、参加者から失望をまじえた多くの再質問が出されるなど、全体では2時間をこえるものとなりました。(議事録全文は第3回「考える会」で配布予定。その中から、明らかにした、いくつかのポイントをご紹介します。)

はつきりしたポイント

①

Q、初期投資25億円以外の設備更新等の費用は?
A、新たな投資は自助努力でやれるように努力する……今は考えていない。

と、いうが市の事業計画でも3千百万円の利益見込みがやっとなら。それさえおぼつかないのだから、ボイラーの修繕(釧路市の例で3千万円)やポンプ・パイプ(日の出町の例でパイプ3千万円)の取り替えや施設の改修など、今後市民負担が更に増えることが予測されます。

はつきりしたポイント

②

Q、年間利用者は? 休日利用者は?
A、休日は8百人〜千人を見込み年間14万人とみています……。

と、いうが駐車場は60台しかなく(十里木とふるさと工房の駐車場で補うと回答)、行業シーンや休日には、渋滞で車は動かさずあの地域は陸の孤島と言われる所。なんとその交通事情調査もやっていないということでした。

はつきりしたポイント

③

Q、民間のサービス競争の中、公共の第三セクターで対応出来ますか?
A、公募してホテル経験者を支配人に。出資団体、地元の関連業者と相互協力で……。

と、いうが支配人が決まってから新しい施策も示せず、出資団体の構成を見ても、厳しい経営環境の中で、温泉事業という特殊な経営で有効な運営方針が打ち出されるとは思えません。

はつきりしたポイント

④

Q、過疎地域の活性化には、「るのバス」の増発等こそ必要では?
A、自家用車が多く、困っているとは思っていません。高齢者対策は民間バスの増発で……。

と、いうが高齢者こそがもっと、気軽に街の中に出かけられる施策こそ、暮しやすい地域環境をつくることではないのでしょうか。

はつきりしたポイント

⑤

Q、財政難で学校の耐震化などにしわ寄せがされています。それでも温泉建設を続けますか?
A、温泉建設とは別の考え方の財政計画を持ってやっています……。

と、いうが借金をしての温泉建設は財政計画とは別の事でしょうか。有利な借金は今しか出来ない(出席の部長発言)でいいのでしょうか。いずれは市民の肩にかかってくる。

はつきりしたポイント

⑥

Q、赤字になった場合、市長はどのように責任をとりますか?
A、良い結果が出るように努力してまいります。

と、いう答えにならない回答。あくまでこの事業に明日はないと考えて、中止を求めるとともに、市長に責任を明らかにするよう求めていきます。

2006.5

NO.3

温泉問題を考える会

発行責任者
竹之内正雄

TEL&FAX
550-3787

あきる野市の温泉建設のこんな疑問を

話合ってみませんか。

第3回

温泉問題を考える会



「考える会」の質問状に
市長は最後まで出さず…。
代理が読み上げた回答書が
またまた疑問を呼んでいる
市民生活と過疎化を
ないがしろにして
有利な借金だけか…。

「考える会」が再度届けた…
市商工会の会長さん、
市観光協会の会長さん、
秋川農協の会長さん、
地元農産物産出組合の会長さん
への質問状への結果は…？

どなたでも
参加ご自由…

どなたでも
発言できます

とき 6月10日(午後7時～)

ところ ルピア3階情報研修室

当日資料代200円をご用意下さい。

主催 あきる野市の温泉問題を考える会 ご連絡は＝ 550-3787 (世話人代表・竹之内)

新しい運動を起しましょう。

要望書

あきる野商工会会長 石川昌宏様

平成18年5月20日
温泉問題を考える会
世話人代表 竹之内正雄
あきる野市野辺911-12
電話 (550) 3787

昨年 突然ではありましたが、貴団体に 温泉問題に関して、公開質問状を出さしていただきました。残念ながらご回答をいただけず残念に思います。

5月17日に、あきる野市と交渉し温泉問題に関して、あらかじめ用意した質問状に関して回答をいただきました。ここで明らかになったことの一つは、約25億円の初期投資だけでなく今後予定される機械・設備の更新についても市民に新たな負担を及ぼす可能性が非常に高いこと。また約3100万円の「黒字」に関して、休日800人から1000人の利用客を見込んでいるようですが、ただでさえも、この地域は、行楽期は「陸の孤島」といわれているように交通渋滞に見回れ、果たして利用客を確保できるかどうか危ぶまれます。

先の公開質問状で、赤字経営になった場合の責任についての貴団体の考えをお伺いしましたが、総務省の調査では、第三セクターの行楽・レジャー分野では、42%が赤字となっています。同省の通達(平成15年12月、別紙添付)にあるように、この赤字を安易に自治体が請け負うべきでなく、出費比率に従って分担するよう求めています。

このことを、貴団体の構成員にも明らかにし、第三セクターへの参加を決めているのでしょうか。
私たちは、いまからでもこの事業を中止し、現在の進行状況にふさわしい計画の変更を求めています。ぜひ貴団体もこの事業の見直しをご検討いただきたくお願いするものです。

「会」へのご協力のお願い!

これからも宣伝カーの運行や
ピラの発行のために

カンパをお寄せ下さい

竹之内正雄 TEL&FAX 550-3787

郵便振込口座を準備中、しばらくお待ち下さい。

再度、4団体

商工会
観光協会
農協
地元農産物産出組合

へ要望書提出。